

■ 通巻第2号



冊子名 さきがけ第1号
発行日 2012（平成24）年7月1日
筆者名 杏里、霧谷 のあ、篠崎蓮、縹色、野生のペット、
祐凧、ゆうや
頁数/発行部数/サイズ 100頁/50部/B6版
主な内容 三行詩・文芸詩・俳句・短歌・散文・反省文
発想練習 ①トンネルを抜けると～②⑩くれる
特別企画 『父よ！母よ！』

印刷所 株式会社栄光

装丁 オフセット本（サンバセットオンデマンドコース）

PPマット加工カラー表紙、前のみ遊び紙

販売価格 300円

備考 発想練習の各作品に感想コメントを追加。文芸詩を作品別ではなく、作家別で掲載。
奥付の前に広告を掲載。初回のみ、色帯を自作、巻きつけ。
初回企画としてカラー小冊子「サキガヒコバエン（書評）」を折込。

レイアウトについて
<ul style="list-style-type: none">・印字が荒い（印字の荒さを解決できるかどうか）→カラー表紙に変更する。・俳壇のフォントが大きすぎる→前後のコーナーとのバランスを考える。・歌壇が無難すぎるが、何かしら変化をつけるかどうか。・つまり過ぎ
作品について
<ul style="list-style-type: none">・三行詩の連作について（詩で書けばいいのでは？）→三行詩ならではの連作であれば可。・霧谷のあ「円形の恋」→人気 ・「夏が来た」→芳香剤が増える理由：生乾き・霧谷のあの詩が好評→薬で巻頭詩に挑戦してみてもどうか？・歌壇が味気ない。大きな変化が必要か？・桶屋コメント、作家・読者ともに好評。・特別企画は面白かった、成功理由として短い、キレが良い。良い息抜きになった。・散文多すぎ→次からなるべく減らす
その他
<ul style="list-style-type: none">・サキガヒコバエン→見た目良かった、書評が嬉しい、勉強になる。字数が多い、小さい・薬2号にも採用 →次回は書評+座談会（千葉組の杏里、篠崎、縹色＝文字おこし：杏里）・桶屋、ゆうやの⑩のみ「くれる。」に句点→全部統一するよう注意。